

平成26年度第1回  
札幌市市民活動サポートセンター運営協議会

議 事 録

【議事ダイジェスト版】

日 時：平成26年7月2日（水）午後7時開会  
場 所：札幌エルプラザ公共4施設 2階 会議室3・4

○隼田座長 平成26年度第1回運営協議会の議事に入らせていただきたいと思います。

本日は、次第にございますように大きく三つの議題がございます。

一つ目は、平成25年度事業実施及び施設利用状況について、二つ目は、第3期指定管理計画（市民活動サポートセンター分）及び平成26年度事業計画、三つ目は、事務ブース使用団体、平成26年10月からの入居分ということで、この選考委員の選出についてということになります。こちらは、市民活動サポートセンターにある事務ブースが9月末までに5区画の空きが出るということで、10月分から入居できる団体を募集するのですが、その団体の選考に当たる委員を選出するものです。

では、まず、一つ目の議事としまして、平成25年度事業実施及び施設利用状況について、事務局からご説明いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

#### 【平成25年度事業実施及び施設利用状況について】

○事務局（森口） 平成25年度事業実施及び施設利用状況について、ご説明いたします。

市民活動サポートセンターにつきましては、運営の中に大きな四つの機能がございます。一つ目が情報収集提供・相談機能、二つ目が研修・学習機能、三つ目が交流活動支援機能、四つ目が団体活動支援機能となっております。この四つのカテゴリーに沿って私どもはそれぞれの事業を展開しております。

情報収集提供・相談機能のうち、市民活動相談についてです。平成25年度の相談件数は1,154件です。平成24年度の相談件数1,307件に対して88.3%となっております。相談の内訳につきましては、平成24年度はNPO法人に関することが突出していましたが、平成25年度については例年どおり団体の紹介や事業に関する相談が寄せられている状況となっております。当事業につきましては現在もさっぽろパブリックサポートネットワークとの協働で運営しております。

利用団体登録業務についてです。市民活動サポートセンターには、団体登録制度がございます。3月末日現在の利用登録団体数は2,280団体となっております。このうち、NPO法人は325団体です。6月1日現在で札幌市所管のNPO法人が890件ということを考えますと、まだ半数を切る数字なので、ここについては強化する余地があると考えております。

情報提供についてです。ホームページにつきましては、さっぽろまちづくり総合情報ポータルにサポートセンターからのお知らせや助成金情報などを載せ情報提供に当たっております。また、平成25年度には北海道情報大学と連携し、キッズページのリニューアルを行いました。ほぼ1年間かけて、隼田委員を中心に、学生の皆さんと会議を重ね、作成いたしました。内容といたしましては、市民活動サポートセンターや、まちづくり、NPO活動に関する解説ページと「子ども記者事業」を題材とした教材という構成となっております。今後は、このコンテンツを活用し、地域の子どもたちを中心に市民活動を伝えて

いくことが次の課題となっております。

子ども記者事業については、7月と1月の全2回実施いたしました。1日目は、子どもたちと一緒にNPO団体のところ取材に行き、2日目に壁新聞にまとめるという内容となっております。この活動の様子はキッズページの中で動画として紹介しておりますので、どうぞ、ごらんください。

次に、子ども記者事業とホームページの制作についてメインワークを行いました学生まちづくりコミュニケーションツール検討委員会についてです。こちらは、北海道情報大学の学生が中心となり、他大学の学生も集まって、ホームページづくりを進めました。1月には仮オープンということで地下歩行空間での広報事業も実施しております。

情報誌「みんなのしみサポ」についてです。年3回、1回につき5,000部を発行し、市内の公共施設や各都市の関連施設、民間のコミュニティーカフェなどでも配付しております。この情報誌づくりについては、編集ボランティアとともに進めております。

地下歩行空間でのPR事業についてです。9月、11月、1月の3期に分け、全6回の実施でした。延べ69団体が参加、来場者は5,259人となっております。内容としては物品販売やワークショップの実施、団体が持つ映像情報の提供などです。また、1月実施分につきましては、出展団体とともに実行委員会を組織し、内容の検討や出展方法についても会議を重ねて運営しました。今後も市民活動団体や市民の方のニーズに合わせた内容を提供していきたいと考えております。

次に、研修・学習機能です。市民活動はじめて講座については、これから市民活動を始めようとする方を対象にしております。内容としては、サポートセンター職員が話題提供者となり市民活動に関する基本的な情報提供とサポートセンターの見学を行いました。

ポイント支援講座運営編については、市民活動団体のスキルアップを目的に全3回実施し、延べ59人に参加いただきました。内容としては会計の基礎、合意形成の場づくり、活動計算書の作成の3テーマでした。座学だけではなくワークショップも取り入れ、特に活動計算書に関してはかなり専門的内容に着手しております。いずれの講座も幅広い団体の方たちに参加をいただいております。

交流活動支援です。しみサポつながるカフェにつきましては、緩やかなネットワークの形成と団体同士の交流を目的として、年間10回実施し、参加者数は延べ132人でした。毎回、テーマを設定し市民活動サポートセンターの打ち合わせコーナーで実施しました。特に、広報などの実践的な情報交換や、また、名刺交換会という純粋な交流型のものの人気が高い状況でした。

ミッションPRについては9月に行われましたエルプラまつりと同時開催で実施しております。団体の持つミッションや活動内容をインタビュー形式で紹介しました。15団体が参加し情報誌の編集ボランティアが聞き手となり、ユーストリームで配信しながらインタビューを進めました。

団体活動支援機能についてです。事業運営協議会につきましては、サポートセンターの

事業運営について、どのように進めればよいかを委員の皆様にご検討いただく場として年2回実施しました。

さっぽろまちづくり総合情報ポータル運営委員会につきましては、ホームページや、ウェブ情報に関するご検討を行う会議として年2回実施いたしました。この会議では特にキッズページの方向性について話し合いました。

そのほか、団体活動支援機能には活動環境の支援があります。具体的には事務ブース、会議室スペースの提供、物品保管のためのロッカーやレターケースの貸し出し、パソコンやプリンター、印刷機などの事務機器の貸し出しなどです。

その他、指定管理業務外でございますが、特定非営利活動所轄庁事務補助業務として、NPO法人の縦覧、閲覧コーナーをセンター内に設置しております。また、NPO法人の事業報告書の取り次ぎ業務も窓口で行っております。提出いただいた年次報告につきましては、PDFにデータ化し北海道市民活動団体情報提供システムにデータをアップしております。

市民まちづくり活動情報コーナーの管理運営については、地下歩行空間のチラシ棚に市民活動団体の皆さんが作成した事業チラシを配架するものです。

最後に、利用人数について報告させていただきます。まず、利用件数につきましては2万3,343件、前年比92.5%、利用人数につきましては7万8,734人、前年比98.7%となっております。平成24年度と比較しますと1,000人程度の人数が減となっております。これは施設外事業参加者数の違いによるものです。平成24年度は地下歩行空間事業を14日間実施したのに対し25年度は6日間でした。その部分を加味して考えますと、純粋な施設利用人数というのは増加していると思えます。

ここまでで、平成25年度の事業実施状況と利用状況についての報告とさせていただきます。よろしく申し上げます。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

これまでのご説明内容にご質問等がございますか。何かございましたら、忌憚のないご意見をいただければと思います。

○工藤委員 キッズプロジェクトというか、さっぽろ子ども記者に参加する条件はどういうふうになっているのでしょうか。参加人数が13人、1が6人で、2が7人という数字がありますが、これはどういうふうにして参加したのか、教えてください。

○事務局（森口）まず、対象につきましては、小学4年生以上の子どもたちを対象として募集をかけております。これは、今回のキッズページの対象年齢を、小学校中学年、4年生以上の子どもたちと設定していることをもととしております。広報に関しましては、広報さっぽろへの掲載、また、私どもの活動協会が発行しております情報誌「あ・そ・ぼ」への掲載、さらに、ホームページや近隣の小学校へのチラシ配布などを行いました。当事業は大人数を対象とする集会事業ではなく、ロールモデルとして紹介していくことを目的としておりましたので、募集人数も1回につき12人を上限としてしました。その結果と

して、キャンセルも含め1回目については6人、2回目については7人という集合状況となっております。

○工藤委員 余りに少ないので、この募集の仕方がどうなのかなというふうに思ったのです。意識的に12人としているということですが、子どもを対象にするということは、子ども自身もそうですけれども、子どもの周りのいる人たちの動機づけ、意識、または関心度を高めるということも多少はあるのかなと思います。ですから、狭めていないで、もう少し広くやったほうがいいのかなみたいにならなかつた部分がありましたし、来年度に向けてどういうふうにするのかなということにもちょっと関心がありますので、また次のところで論議したいなと思います。

○隼田座長 ありがとうございます。今のことに関しては、私も関係していたことなので、ちょっと補足させていただきます。

これは、先ほど事務局からご紹介のあったウェブサイト、キッズページのコンテンツをつくるための事業でして、あのコンテンツを見ていただくと、例えば児童館、学校あるいは子ども会とか、そのような団体で同じような記者事業、記者活動ができるような教材になっていて、去年はその教材づくりのために実施したというようなところもあります。それから、学生のボランティアが運営しているので、その大学生のボランティアの人数や、また、受け入れ先のNPO法人のキャパの問題などいろいろなことがありまして余り大きい規模でできないのが現状です。

ただ、工藤委員がおっしゃっていただいたように、もっと広げるべきだという点については、ウェブサイトを使ってそれを見ながらいろいろなところで同じ試みをやっていただきたいというのがポータルサイトを検討する側の考えでもございます。

昨年の2回目は、児童館からの集団申し込みというか、何人かまとまって申し込みなどもございました。そのような積極的な児童館もあるみたいですし、これから児童館のほうに積極的に働きかけていただいて、このコンテンツを活用してもらって児童館ごとにやってもらえないかというような話も出ていますので、多分、そういう感じになるのではないかなと思います。

○工藤委員 今の件に関しては恐らく、今の子どもたちは大変関心があることではないかと思うのですね。たくさん応募があつてやりたいという人があつて、その中で選考してこの数字になったというか、第1回はこうだからという話かなと思うのですけれども、多分、今後も関心を持つ子どもは多いのではないかなという気がしますので、次年度のところでまたお話ししたいと思います。

○隼田座長 ありがとうございます。そのほか、何かご意見等はございますか。

○平井委員 市民活動情報誌の発行のところで一つ教えていただきたいのです。

発行部数は5,000部になっていますが、これは、配架したところで残部というのはあるのでしょうか。5,000部が全部なくなっているのですか。

○事務局（森口） 5,000部発行に関する配布状況についてということで、配布箇所

については330カ所としております。1カ所につき、多いところで20部から30部、少ないところで5部程度です。最終的に、1,000部程度が私どもの館内配付用として残ります。残部の状況については、200から300程度の残部があって、バックナンバーとしての配架をしております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。ほかに何かございますか。

○荒井委員 昨年度、平成25年度も、多彩で、そして多岐にわたる事業をご説明いただきました。私どもは、実は仙台市のしみサポの登録団体でもあります。仙台市のしみサポというのは全国的に注目されている活動の熱心なところですが、そこと比しても、全然、札幌は負けていない、むしろ、きめ細やかさとか、アウトリーチの長さを見ますと札幌というのはやはりすごいなというふうに感じました。

その中でも特におもしろかったのは、キッズページですね。今、事務局の把握している範囲で結構ですけれども、これについて、道内のマスコミで紹介された実績があれば教えていただきたいと思います。

○事務局（森口） プレスリリースなどをして積極的に広報を進めおりますが、残念ながらホームページのリリースなどについて取材に至ったという状況はありません。引き続きPRしていこうと考えております。

○荒井委員 今後、もし私どもがお力になれるのであれば、ちょっと言っていただければ、マスコミのほうにもこんなことをやっているよとご紹介できることもあるかと思っておりますので、私どももしみサポの活動に注目しながら進めていきたいと思っております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。ほかに何かございますか。

○工藤委員 チ・カ・ホでイイネ！というのは、3回にわたってやられたのですね。1月実施分は、日曜日なのに283人と少ないのはどうしてなのだろうなど。時間を早く切り上げたということですか。

○事務局（森口） 冬季ということもあり時間は若干短かったのですが、要因はそこではなく、ちょっと寒かったというのはございます。

また、1月実施分に関しては、内容が他の回と違っております。9月、11月実施分については、出展団体が各自のブースで、活動の展示や販売、体験等を実施し、それぞれの参加者数を延べ人数としてカウントしております。しかし、1月分につきましては、映像をテーマにしており、場内全体の人数をカウントしました。その違いもあって、差が出ていると考えられます。

○工藤委員 チ・カ・ホでイイネ！というのは、とてもいい活動だと思います。私は、初日に行きましたら、すごい人がいたので、これはいいなと思ったのだけれども、9月実施も11月実施も全く同じ数字で出ているのですけれども、事実、同じ数字なのですか。

○事務局（森口） 本当に偶然です。

○工藤委員 わかりました。

この活動はとてもいいのではないかと、ここを活用できればもっといい方法もあるのでは

ないかなと思っております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。 そのほか、何かございますか。

○中脇委員 市民活動はじめて講座、ポイント支援講座、しみサポつながるカフェに関してですが、参加者の年齢層を教えてください。

○事務局（森口） 市民活動はじめて講座につきましては、平日で昼間の時間の実施ということもあり、シニア層の方の参加が多くありました。しかし、全てがその年代の方ということではなく、数人ではございますが、20代、30代の方も含まれていたことを申し添えます。

次にポイント支援講座については、10月の初級会計、12月の会議の場づくり、3月の活動計算書をテーマとして実施しており、12月実施分については、若干、若い世代で、40代とか50代前半ぐらいの方の参加が多くありました。10月、3月実施に関してはいずれも広い年代の方に参加いただいています。シニア層の方の参加が多いのは全般をとおして見られる傾向であります。

次にしみサポつながるカフェについてですが、こちらもメインの参加者はシニア層の方です。今年度も4月に実施しているのですが、これは土曜日実施だったためか、学生や若者の参加が3分の1程度ありました。やはり時間と曜日設定によって年代が変わってくるのだと把握しております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

今、お聞きした内容ですと、若い人のまちづくり参加は、市民活動サポートセンターにとってはここ何年間もかなり重要なポイントになっていて、そういうこともあってキッズページをつくってきたという経緯もあると思います。土曜日開催したときに若い人が多かったということであれば、それは今後の活動のヒントになりそうだなという感想を持ちました。

ほかに何かございますか。

○安岡委員 同じく、市民活動はじめて講座とポイント支援講座の活動についてちょっとお伺いしたいと思います。

市民活動はじめて講座は、恐らく広報さっぽろも使っていただいて広報したのかなと思いますが、1回目の4人というのは、お盆のシーズンだから少ないのかなと、それから、2回目、3回目、4回目で3回目はちょっと人が多いのかなというふうを感じるのですが、何が違ってこういう人数差が生まれたのか、分析されていれば教えていただきたいと思います。

それから、ポイント支援講座の運営のほうですが、実際に活動されている方というのは、結局、NPO法人だったらいろいろな書類を出さなければいけないので、こういった運営の講座というのも非常に重要なのかなと思います。しかし、それぞれ1時間半から3時間程度なので、こういったことである程度のことを習得できるものなのか。また、こういった活動に対してのフォローというか、受講された方に対するフォローみたいなことは何か

されているのか、教えていただければと思います。

○事務局（森口） まず、市民活動はじめて講座についてです。

8月15日は、お盆時期ということもありますが、こちらは、私ども職員が話題提供者となる初回の事業ということもあって、プレ実施として実施したのになります。そのため、広報範囲が少し狭く、館内広報が中心でした。その後は、より多くの方に参加いただけるように、広報さっぽろに掲載させていただいて参加募集をかけております。

次に、ポイント支援講座の技術の習得とアフターフォローについてです。

いずれの回についても、単発での技術習得や完全理解は難しいと私どもも考えております。アフターフォローとしては、講座の修了後に講師と個別にお話をさせていただけるような時間をつくっておりますが、この年度の中ではステップアップの講座などは設定できませんでしたので、そこは私どもも課題と考えております。

また、今後は1テーマにつき、複数回の講座を実施し深めていけるような内容を検討し取り組んでいるところであります。

○隼田座長 どうもありがとうございました。

ほかに何かございますか。

（「なし」と発言する者あり）

### 【第3期指定管理計画及び平成26年度事業計画について】

○隼田座長 それでは、次の議事に移らせていただきたいと思います。

次の議題は、第3期指定管理計画（市民活動サポートセンター分）及び平成26年度事業計画ということで、事務局からご説明いただきたいと思います。

○事務局（森口）

第3期指定管理計画及び平成26年度事業計画ということで、今年度からスタートしております第3期市民活動サポートセンターの指定管理業務の計画全体に関する説明と今年度の取り組みを併せて説明いたします。

まず、第3期指定管理計画の基本的な実施方針についてです。これは、4年間の指定管理計画を進める上で我々が重要と考える視点をまとめたものでございまして、全部で五つございます。

一つ目は、はじめる。個人・団体のスタート支援・インキュベート機能です。

こちらは、個人の方、これから始めたいという方たちがどのようなきっかけでスタートしていくことができるのか、また、始めたいけれども、情報がなくてできない方のためにどんな支援ができるのかということを考え事業化していくものです。

二つ目は、はぐくむ。こちらは、次世代を担う子ども、若者の参画促進です。前出のスタート支援に重複する部分もありますが、特に、サポートセンターとしては、次世代をさ



さえる子どもたちや若者の参画促進が重要と考えております。そのため別立てをして事業を編成し、その機会提供を進めていこうというものです。

三つ目は、理解し合う。こちらは、市民活動団体同士の交流支援です。特に、フラットな関係で緩やかなつながりをつくる。そして、対話を軸にしてつながっていくこと。分野ごとの集まりではなくて、相互理解をしながらつながることがとても大切で重要と考えております。その場をつくる、特に対話を重視した協働の場の基本となるような場づくりをしていくというものです。

四つ目は、つながる。こちらは、地域を初めとするコミュニティと市民活動の橋渡しです。市民活動サポートセンターは、たくさんの方に利用いただいておりますけれども、やはり、社会的課題というものはこの施設の中にあるものではなく、それぞれの生活領域や地域にあるものだと考えております。そのため、それぞれの地域で活動を進めている方たちとさまざまなノウハウを持つ市民活動団体の皆さんがつながってくための、橋渡しをしていくための機会を創出します。

また、方針の中にはさまざまなつながりが含まれており、地域と市民活動団体もそのうちの一つですが、私ども市民活動サポートセンター自体がつながっていくという視点を持つ必要もあろうと考えております。広い視野をもって市民活動の中間支援に取り組む組織の方たちとつながり、連携しながら情報交換をして相乗効果を目指していくことが重要だと認識しております。この部分については、これまでは手が届きづかった部分です。全くつながりがなかったわけではありませんが、今後は特に強化し、さまざまな地域の状況もお伺いしながら、ともに課題を解決していこうというところで設定しております。

五つ目は、たかめる。市民活動団体の方たちは、素晴らしい思いを持って尊敬すべき活動をたくさんされていらっしゃると思います。それは市民の方々のニーズに応えるものであり、必要とされる活動であろうと思いますが、十分に正しく知られているとは言い切れない部分もございます。そこで、活動が透明性を持ち、公正に団体運営をされているということをしちんと伝え、必要とされる活動をもっと増やしていくことが必要であろうと思います。そのために、組織基盤強化の一助となる研修の実施や情報公開のお手伝いをすることができればと考えております

これら五つの指針の中で、特に重要と考えているのは、スタート支援と市民活動団体の組織能力の強化、実務能力の向上です。

次に、単年度計画とともに、主な事業の説明をさせていただきます。

市民活動相談については今年度から専門相談を開設しております。市民活動相談には、団体・人の紹介や、NPO法人についてなど総合的なものだけでなく、税務や会計、労務についてなど専門的な相談も寄せられます。そのニーズに応えるために、今年度から北海道税理士会との協働により税務・会計相談窓口を設置しております。

ホームページの内容拡充については、前年度にキッズページを設置したところですが、今年度は若者を中心に盛んに利用されておりますSNSの活用に取り組みます。具体的に

はサポートセンターのフェイスブックページを開設し、プッシュ型の情報発信や、さまざまな世代の方たちに情報が届く環境をつくっていくことを目指します。

市民活動はじめて講座については、継続実施します。今年度につきましては、先ほど中協委員から質問がございましたが、対象については精査しながら事業を進めていきたいと考えております。4月分についてはシニア層を対象とし実施いたしました。参加者数としては残念ながら定員に満たないものでしたが、これから地域で活動していくためにはどんなことをしていったらいいのだろうか、町内会でやっていこうと思うけれども、どんなことができるだろうかという質問も寄せられその世代ならではの実施内容となりました。

平成26年の計画ではないのですが平成27年度にはNPO設立支援講座開設する予定です。そのための職員のスキルアップに今年度から取り組んでいきます。

NPOマネジメント講座についてです。講座のテーマにつきましては、今年度は三つを予定しております。前回の運営協議会の中でどのように自分たちの事業を評価していくのか、そのアンケートのつくり方について知りたいのだという意見をいただきました。10月実施分ではアンケートのつくり方をテーマとし実施いたします。

また、税務、会計については継続して取り上げるテーマとしております。来年度以降につきましては、新規のテーマも織りまぜながらNPOのマネジメントに資する内容を提供していきたいと考えております。

子どもNPO創造事業についてです。これは、これまでの子ども記者事業を発展させ実施します。今年度はまず、昨年度作成いたしましたキッズページに事例を追加するために8月に実施いたします。ということで夏実施です。

次に、今年度はアウトリーチ型の実施をしていきたいと考えております。これは、児童会館などと連携し子どもたちが地域を知るためのきっかけづくりを進めていくものです。子どもNPO創造事業については4年間実施していく予定です。

NPOインターンシップについてです。今年度は、ロールモデルとしてまずは実施し、来年度以降、受け入れ先の方たちのネットワークもつくりつつ4年間を進めていこうという計画です。具体的には、NPO法人ezorockの草野さんにご協力をいただきながら、大学生、若者を受け入れて10月にインターン事業を行っていく予定です。この事業では、サポートセンターが若者を地域活動やNPO活動とつないでいくためのステーションとなるためのネットワークづくりということも見据えております。

フォーラムについてです。この事業は先駆的な活動をしている市民活動団体の方たちにパネラーとなっていただき、講話をいただいた後、ワークショップをするというものです。

異分野交流・情報交換会についてです。さまざまなステークホルダーの方たちに集まっていたいただき情報の交流だけや、市民活動の将来展望などをフラットな立場でお話しただけの場を提供していきたいと考えております。

中間支援組織とのネットワークについてです。中間支援組織との連携やネットワークへの参加についてはこれまで以上に積極的にコンタクトし、仲間に入れていただきながら、

勉強して進めていきたいと考えております。

交流活動支援については、NPOの方たちと市民との情報交流、出会も重要と考えております。これまでは地下歩行空間での事業を中心にその機会提供を行ってまいりました。今年度からは次の種類の事業を実施しようと考えております。

一つ目は、地下歩行空間での事業です。平成26年度は7月、9月、11月の3回実施します。ワークショップや物品販売、映像上映などをテーマとして、多くの方が交流できる場を地下歩行空間につくります。

二つ目は、エルプラザ内での出展サポートです。エルプラザは多くの市民の方に利用いただいている施設です。この事業ではNPOの方たちがエルプラザ内に出展ブースを設け、常設で物品販売などによる情報発信していく場所をつくっていくものです。実施時期は、10月もしくは11月の予定です。

三つ目は、アウトリーチです。地域の基幹となる施設へ私どもが出張し、プログラムの提供や市民活動はじめて講座のようなコンテンツの提供を行い、アウトリーチ活動に積極的に取ります。

団体活動支援機能に関しましては、今年度から新規でスタートしたものとして、打ち合わせコーナーで無線LANの開放があります。登録団体の方であれば無線によるインターネット環境を無料で利用いただけるように設置しております。ハード面についてはこれまでと同じく、もしくはさらに使いやすい環境を提供していくことを目指します。

○隼田座長 どうもありがとうございました。それでは、これまでのご説明に関してご質問、コメント等がございましたらよろしく願いいたします。

○工藤委員 また同じような質問をいたします。研修、学習に関する業務というところの子どもNPO創造事業ですが、具体的には去年やったことと同じですか。

○事務局（森口）今年度の第1回目に関しては、まず、同じ内容でキッズページコンテンツの完了を目指します。そして、2回目以降に関しては、先ほど説明を差しあげましたとおり、アウトリーチ要素を含めた形で、児童会館などの施設と連携して展開していくことを予定しております。平成27年度以降に関しては、子ども記者事業というコンテンツで行くのか、また新たな違うコンテンツなのかというのは、別に検討をしていきたいと考えております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。ほかに何かございますか。

○平井委員 研修、学習でNPOはじめて講座を今年度もやられるということで、昨年度は平日の昼間という設定だけでしたけれども、私も活動したいという方にこういうものがあるよとお伝えしたのですが、お仕事をされている方だったので、日中、昼間だと行けないということでした。そこで、例えば、同じ講座でも時間帯を変えてとか、休日に行うとか、また、子育て関係の活動をしたいという方もいると思うので、託児付きの講座を企画するというようなことは考えておられるのでしょうか。

○事務局（森口） NPOはじめて講座の日程及び時間設定についてです。

今回、シニア層ということで団塊の世代を対象にした講座を4月に実施したのですが、今年度この事業はあと3回実施する予定でございます。その中で、夜間や、土・日での実施を行い、多様な方が参加できる日程も組んでいこうと思います。

託児に関しましては、対象の中で特に必要と思われたときにあわせて検討していこうと考えております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。ほかに何かございますか。

○安岡委員 いろいろと検討していただいて、また、少ない人数の中でいろいろな行事をやってくださってありがたく思っているところです。特に、基本的な実施方針のところについては、我々のほうの市民まちづくり活動促進計画でも、きょう配っていただいた概要版を後ろから1枚めくっていただいたところに基本目標を書いています。わかりやすい言葉でということで、参加、向上、交流、そして連携という四つの目標を立てております。今回の4年間の実施方針の計画書では、ご説明を聞くと、はじめる、はぐくむは参画かな、理解し合うが連携かな、つながるが交流で、たかめるが向上かなと、まさに我々の計画と合致した形で進めていただけるなど本当に心強く思っております。

その中でちょっと気になっていたのが登録団体数ですけれども、先ほどのご説明でも平成25年度では2,000団体で、そのうちNPO法人が325団体というお話がありました。実は、私どものほうでもさぼーとほっと基金という基金を持っておりまして、それでも団体登録しておりますが、400団体ほどなのですね。NPO法人の中には、もちろんそういった助成を受けなくても活動できる団体もいらっしゃると思うのですが、そういった登録をどう広げていくかということは私たちとしても課題でありまして、これをいろいろと考えていきたいなと思いました。

あと、こういった講座についても、興味のない方に届くのはなかなか難しいのかなとは思いますが、最低限、興味のある方には届くような手法を自分の部署も含めていろいろ考えていけたらなと思っています。本当にサポートセンターや運営協議会の皆さんにいろいろな意見をいただきながらやっていけたらなと、この計画書を見た私の感想ということで述べさせていただきました。

○隼田座長 どうもありがとうございました。非常に重要な視点だと思います。特に、新規で始めるような立ち上げ支援、スタート支援は、既に登録している団体の方たちは情報にすぐリーチできますけれども、これからやろうとしていて、どうしていいかわからない方の中には、ここの存在すらご存じない方もいらっしゃる可能性が十分あります。その部分をどうしていったらいいのかというのは、多分、考えなければいけないことかなというふうに思います。

このあたりについて、例えばどういうふうにリーチしていくのがいいのか、何かご意見、アイデア等ございましたらお願いします。

○千葉委員 市民活動サポートセンターを知らない方もいらっしゃるというのは、私も実感として思います。というのは、私も数年前までは知らなかったという状況がありました。

さて、ご説明があった26年度の基本的実施方針の中の「理解し合う。」、そして「つながる。」こういったシンプルなキーワードを大事に、更に注力されていくのだと感じ嬉しく思います。また、頂いた資料に「対話を重視した協働の場の基本をつくる」と書いてありますが、江別、札幌をはじめ、石狩管内の広範囲にわたって中間支援の団体の方々とも対話や連携を深めながらやっていきたいと思っています。札幌市市民活動サポートセンター様との連携等、よろしくお願ひしたいと思っております。

そして、ちょっとおこがましい話かも知れませんが、私どもは「NPO法人えべつ協働ねつとわーく」と申しまして、活動を始めて8年目となっております。本年度当初に、あらためて「協働とは何か」ということに立ち返ろうと考えました。実は、江別に国際センターというのがございまして、そこが市民活動センターの向かいなのですが、そこで、海外から来られている教師の方に、日本語の協働を、実感のこもった英語で訳すとどういう言葉が適切であるかと聞いてみたのです。通常、「協働」は「コラボレーション」というような枠組みで捉えておりますが、実感を伴う表現だと、「パートナーシップです」と、こういうふうに教えていただきました。

ですから、中間支援団体のつながりというものも、やはり、協働は重要なキーワードになるのですが、この中に「パートナーシップ」ということを忘れないでやりたいなというふうに思っています。

○隼田座長 どうもありがとうございました。ほかに何かアイデア等がございますか。

○工藤委員 ミニ大通お散歩まつり実行委員会というのがありまして、ことしで5回目を迎えておりますけれども、私はそこの代表をしております。これは、地域の人たちが自分たちの資源を持ち寄ってつながることを最大の目的として始めまして、最初は実行委員が5人ぐらいでしたが、今は、当日の実行委員は200人、参加される方は約3万人を超えております。また、指定団体ということで、札幌市のさぼーとほっと基金も受けて非常に助かっております。また、お散歩まつりをやっているのは桑園というところですが、その札幌市のまちづくりセンターの歴代の所長はとにかく献身的で、役所にこういう人がいるのだなと思うぐらい一生懸命やっただいて、我々もとても助かっております。

これは、基本的には、地域住民がみずからがみんなで協力し合って一日を楽しもうということですが、まちづくりという大きい観点ではなくて、もう少し小さいところからつながるといふか、もっと簡単に言えば、声をかけようとか、挨拶をしようとか、ミニ大通というのは遊歩道になっているので汚いときには掃除をしようとか、こういうことから始まっております。それが地域の人たちにだんだん広がって、また、その地区には大通高校がありますけれども、授業の一環として300人体制で草取りをするということも毎年できるようになりました。そういう中で、ここがこういう支援をしているのだと、住民みずからが立ち上がって一生懸命やったら行政は支援してくれるのだと、また、そういうNPO法人もあるし、助成金という制度もあるしと、いろいろなものがわかってくるといいのか

など。まだ、そこまでわかっていない、しかし、このままじゃいけない、何か私もその一翼を担いたいという人はたくさんいると感じるのです。

去年、3万人近くの方がおいでになって、相当にPR効果があって、当日のうちにもう来年のことを聞いてくる人たちが圧倒的でした。実行委員も200人近くになりますが、その人たちももう既に参加希望というかなりノミネートしてきております。小学校、中学校、高校、大学まで、それから地域の介護施設、それから、市立病院を含めて民間の病院が桑園の地区にたくさんありますけれども、この人たちも、皆さん、参加希望ということになっております。

何を言いたいかというと、我々も、みんなが自主的にやれるようなことをここで何か考えていく必要があるのではないかなという気がしております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。今お二方からお話がありましたいろいろなつながり方をするには、ウェブやインターネットもそうだと思うのですが、それこそ町内会だとか、いろいろなレベルからのアプローチも多分必要ではないかと思いました。ですから、今後、事務局でそのあたりもご検討いただきながら、どういうふうに宣伝、広報活動をやっていくか考えていただければと思います。

今の議事に関してはよろしいでしょうか。また、ご意見がございましたら、随時、事務局のほうで受けていただけたと思いますので、頂戴できればと思います。

それでは、次に参りたいと思います。

#### 【事務ブース使用団体（平成26年10月入居分）選考委員の選出について】

3番目は、秋以降に新たに事務ブース使用する団体を選考する委員の選出についてです。事務局からご説明いただけますか。

○事務局（森口）この選考委員に関しましては、第7条、選考委員会で、「選考委員は、サポートセンター事業運営協議会委員のうちから同協議会において推薦されたものを含む市民活動に関する有識者及び札幌市所管局長及び課長及び理事長または理事長の指名するものの7名以内の委員をもって組織する」と定められております。そのため、この会議の場をもちまして、運営協議会の委員の中からお二方を委員として選定していただきたいと考えております。

今回の議事の中には10月入居分とございますが、年度更新に係る4月入居分の選考会も予定されております。そちらに関しても今回の会議で選出される委員のお二方に継続して選考いただきたいと考えております。

よろしく願いいたします。

○隼田座長 どうもありがとうございました。それでは、これまでの説明内容を踏まえまして、事務局のほうから何かご提案はございますか。

○事務局（佐々木課長） 今回の選考委員会委員としまして、事務局からは荒井委員と隼田委員を推薦させていただきたいなと思います。

○隼田座長 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○隼田座長 どうもありがとうございます。

それでは、荒井委員、よろしくお願いいたします。私も頑張らせていただきます。

最後に、皆様からご意見、ご感想等がございましたら頂戴できればと思います。いかがでしょうか。

○荒井委員 では、最後に、エールという意味でお話しさせていただきたいと思います。

私どもは、しみサポの相談窓口での相談から始まって、しみサポの事務ブースに入り、満了とともに、今、市民活動プラザ星園に入っております。我々は、市民活動と言いましても、読書環境整備の職能集団でありまして、実は中間支援組織がなければ進んでいけない団体でもあります。ですから、しみサポには本当にお世話になり、今は星園にお世話になっておりますが、こういった中間支援組織の方々のためご苦勞の上に我々の活動が成り立っております、今後の活動にぜひエールを送らせていただきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

○隼田座長 どうもありがとうございました。千葉委員、お願いします。

○千葉委員 私からもエールというか、一言。このエルプラザの札幌市市民活動サポートセンターがなかったら今の私はないという状況だと感じます。そういう意味で、人生の活路といいますか、大事なところに導いてくれたすごい場所なのだと思います。

私も、江別の市民活動センターでも、きっかけの場としての役目も果たせるよう、さらに一生懸命やっていきたいと思えます。

本会の冒頭に私の方から動員数の話をしましたけれども、先ほど森口さんが発表されていましたように、尊敬されるべき活動をしている市民活動団体があると、このところが本当に一番大事だと思うのです。それは、簡易的で簡単な活動評価軸では測れないなこともあり、数に出てこなかったり、すべてがデータに出てこない側面もありますが、一生懸命活動されている方がいることは私も切実に感じることです。私は札幌市は本当に支援が厚いと感じておりますけれども、そういった、数やデータに現れない活動や重みを、どうかこの先も温かく受け止めて続けていただきたいと思います。

○隼田座長 どうもありがとうございました。工藤委員、お願いします。

○工藤委員 実は、私は青森県出身でして、青森の元気応援隊のメンバーでもあり、やはり県と市のほうから委嘱を受けています。そういうところから見ると、札幌というのはす

ごいなと思います。しかも、サポートセンターの人たちは非常に真面目で、一生懸命に取り組んでいるので、そこは、エールどころではなくて、もう表彰をしたいなという感じを受けますね。

ただ、もう一つ、もっともっと広められる方法がありはしないかなと感じています。せっかくだから、いいことはみんなにいっぱい知ってもらったほうがいいのではないかなと思うので、ぜひ、これからの活躍を期待しています。私自身も何かできればと考えていますので、ご一緒にできればなと思っております。

○隼田座長 どうもありがとうございました。中脇委員、お願いします。

○中脇委員 私は、実は生まれから札幌を離れたことがないのですが、札幌市のこういう活動が当たり前だと思って進んでいたら痛い目を見るなど、今、実感しております。そして、この手厚い支援をすごくありがたいものなのだというふうに思って、もっと有効活用できるようにはならないなと思っています。

それから、NPOマネジメント講座だとか、これから始まる活動もすごく楽しそうだなというふうに思いますし、フェイスブック開設なども若者が市民活動について知るいいきっかけになるのではないかなというふうに思って、これからも楽しみにしています。

○隼田座長 どうもありがとうございました。平井委員、お願いします。

○平井委員 私も、市民活動サポートセンターに相談をしたことから団体活動が始まったのです。本当に一から教えていただいたというか、支援していただいて、今の私と団体がありますので、本当に感謝しております。

また、東京から来た方などが、こんないい場所に男女共同参画センターがあるのだねと本当にびっくりされるのです。この表を見ても年間で38万人ぐらい利用しておりますが、デパートの噴水効果ではないですけれども、エレベーターで3階、4階には来るけれども2階に寄ったことがないという方が本当に多いのですよ。こういうところがあったのかという方が多いので、ぜひ、3階、4階の施設を利用した方が2階に行くような、寄り道するような案内などがあるとみんなに知られるのかなと思います。アナログな方法ですけれども、そういうことも必要かなと思っています。

○隼田座長 どうもありがとうございました。安岡委員、お願いいたします。

○安岡委員 私の感想というか、コメントですけれども、実際には、私自身は4月から今のお仕事をしていて、サポートセンターとのお付き合いも短い期間の上、実際に活動している場を見る機会がなかなかありませんでした。しかし、今回、この場で、ここがあったから今の自分があるというようなお話を伺って、この市民活動サポートセンターの意味と意義というのを非常に強く感じる事ができて、本当にいい機会になりました。ありがとうございます。

本当に、できるだけそういう方が増えていくような、そんな支援をこれからも市民活動サポートセンターがやっていく必要があるのだと思います。そのためには、今、皆さんがおっしゃっていただいたように、アナログで知らせるとか、あるいは口コミで知らせる



とか、やはり、人と人とのつながりというのはすごく大きいものがあると思いますので、ぜひそういった形で広がっていけばなというふうに思った次第です。

ありがとうございました。

○隼田座長 どうもありがとうございました。今、お話を伺ってしまして、皆さん、こちらにいらしている方たちは、基本的に、まず第一歩を自分で踏み出すことができた方たちなのだと思います。ただ、中には、その第一歩の踏み出し方がわからなくてちゅうちょしていらっしゃる方はいっぱいいらっしゃるはずですよ。そういう人たちに、どういうふうに第一歩を踏み出すチャンスというか、機会を与えていかれるかというのが、今、市民活動サポートセンターに求められていることなのではないかなと思いました。これからそのあたりについていろいろ検討していただきながら、我々も、この委員会でいろいろなアイデア、意見等を出しながら協力していければと思います。

私は、個人的に、一つ、札幌市にお願いがございまして。最初にまちづくりの総合情報ポータルサイトを始めたときからずっと関わらせていただいて、そのときからやりとりがいろいろありました。それは、中間支援組織の話で、ネットワークをつくっていくという話と非常にかかわりがあることです。このサイトを、この施設も札幌市のものですが、その当時の委員会のほとんどのメンバーから同じように出ていたのは、市民サイドからすると、中間支援をしてくれている団体が札幌市なのか道なのかは関係ない、どこの所属なのか、どこの行政機関なのかというのは全然関係ない、だから、総合情報ポータルとうたっているのであれば、ありとあらゆるリソースにアプローチできるようなサイトにしてほしいということでした。当時、結構、無理難題を出されてまして、担当なさっていた市の方にも相当ご苦勞いただいて、できる範囲内でそれをある程度はクリアしていただきましたが、まだ十分な状況ではございません。例えば道との連携だとか、いろいろな形で支援をしていけるように、要は中間支援組織のネットワーク化を支援することを行政としてうまくやっていただければ、より活動がやりやすくなるのではないかなと思います。ぜひご検討いただければなと思います。

皆様、どうもありがとうございました。本日の議事は以上となります。

それでは、第1回の運営協議会の議事を終了させていただきたいと思います。今後とも、よろしく願いいたします。